

## 研究室の窓から



### 探求ネットワーク

—子どもたちと学生との

探求的な総合学習—

森 透

### 大学の評価とは

この四月から国立大学は国立大学法人となり、中期目標・中期計画に基づく日常的教育研究活動が社会から評価されることとなった。私の所属する福井大学も同じである。大学が今日のような形で評

価の対象となることは歴史上初めての経験である。大学が社会から評価の対象となることは必ずしも悪いことではなく、むしろ今までの大学の象牙の塔としての閉鎖的な体質が社会や国民に開かれることを通して、意味のある大学として再生できるチャンスともいえる。しかし、同時に社会の評価の中には、経済的効率性や競争原理による淘汰の論理による評価も当然存在する。大学は国民や地球的レベルでの様々な階層の人々の幸福のために学問研究をするところであり、地球規模の人類の福祉に貢献するのが大学の役割ではないかと筆者は思う。今日の大学評価が一部の者だけに還元される評価であっては断じてならないと強く思う。

### 探求ネットワークとは

さて、福井大学は二〇〇三(平成十五)年度の文部科学省の「特色ある大学教育支援プログラム」(COL)に採択された。全国の国公立大学・短大から六百六十

四件の応募があり、その中から八十件が採択されたが、教員養成をテーマにして採択された大学は福井大学だけであった。福井大学教育地域科学部から出したテーマは「地域と協働する実践的教員養成プロジェクト—ライフパートナー事業と探求ネットワークを中心に—」。教育学・教育実践史を専門とする筆者はこのCOLプロジェクトに直接的に関わっている一人であるが、特に「探求ネットワーク」の活動を学生と小・中学生による総合学習と位置づけて参加している。

「探求ネットワーク」とは今年で十年目を迎えるプロジェクトで、五月から十二月までの八ヶ月間、第二・第四土曜日の午前中を中心として九つのテーマに分かれて継続的な探求活動を行うものである。九つのテーマとは、人形劇・紙すき・もぐもぐ(料理)・歴史たんけん・気球・それいけ!!たんけんたい・キャンピング・ナチュバラ(ナチュラル・クッキング・パラダイス)・FFC(ふれあいフレ

ンドクラブ)。参加者は福井市内を中心とする小学四年生から中学生までの約二百五十名及び福井大学の一年から四年までの学生約百五十名であり、子どもたちの中には小学生の時から参加して、いまや大学生になった若者も大先輩として様子を見に参加している。五月から十二月までの八ヶ月間という長い期間、同じプロジェクトに継続して参加する中で、一人ひとりの子どもたちが探求活動を通して様々なことを学び成長し、同時に教師の卵である学生たちも成長するのではないかと期待している。実際は、活動がうまく進まないときが多いが、学生スタッフは子ども経験者スタッフの応援も得ながら、次の活動をどのように創っていったらよいかを模索する。今年の学部一年生は約七十名が参加している。彼らは一年生対象の選択科目「総合学習研究」を受講し、そのほとんどが「探求ネットワーク」の活動に参加している。受験勉強を終えて入学した学生が、一年生の早

い段階で直接子ども達と触れ合うことが出来るのはこのプロジェクトならではかと思う。

### 障害をもった子どもたちとの

#### プロジェクト

九つのテーマの中で、そのほとんどが十年目という歴史をもつが、一つだけ三年目という新しいプロジェクトがある。それは障害をもった子どもたちと学生たちとが少人数グループで活動するFFC（ふれあいフレンドクラブ）である。今年も約四十名の障害をもった子どもたちが参加し、相手となる約五十名の学生スタッフは障害児コースの学生だけではなく、様々なコースの学生がスタッフとして参加している。そもそも十年前に「探求ネットワーク」を始めたときには、障害を持つている子どもたちのことはあまり念頭になかったが、十年近く活動を続けるなかで、このような子どもたちの思いや願いを実現していく活動では、障害

がある、なしに関わらず、子どもたちの本当のニーズに応えることが大事ではないかと考えるようになった。現在のインクルージョンの考え方も踏まえながら活動を広げていくことが必要ではないかという考え方もって三年前の学部四年生が中心となって始めた。今年もなかなか大変であるが、障害児教育コースの学生を中心として計画的に進めている。

以上のように、筆者はこの十年近く、五月から十二月までの第二・第四土曜日は「探求ネットワーク」の活動に参加することを通して、子どもたちや学生たちの学びや成長・発達について考えてきている。近代日本の教育史上の総合学習の蓄積からも学びながら、子どもたちや学生たちに、「探求ネットワーク」にみられるダイナミックな総合学習の原点や醍醐味を教えてもらっている。

もり・とおる

福井大学・教育地域科学部  
附属教育実践総合センター